

# 緑をとりもどせ！

—生物多様性の保全と崩壊地の緑化を目指して—

鳥取県立智頭農林高等学校  
森のしずくクラブ

# 森のしずくクラブ 上板井原演習林





演習林内にはススキの草原が点在

2003年撮影

7年前にススキが枯死、その後復元せず！



草原に生息する野鳥が減少！



裸地の崩壊が進み、



土砂流出被害が発生！

# シカの食害により失われた緑



2020年3月  
山腹斜面にて撮影

春先、  
新芽を食べつくす  
ニホンシカ

「緑をとりもどせ！」プロジェクト

多くの方からの励ましと助言

## 活動 1

「ススキの植栽による山腹斜面の緑化」

## 活動 2

「シカの忌避樹木の植栽による裸地の森林化」

## 活動 3

「害獣駆除されたシカの皮の有効利用」

# 活動 1

## 「ススキの植栽による山腹斜面の緑化」



2月25日

鳥取県林業試験場訪問

場 長 村上拓朗 様  
研究員 矢部 浩 様

よりご指導をいただく。



『斜面緑化の第一歩は、  
土砂の移動をとめること。』





『**荒廃地の森林化**  
には、  
**長期的な計画**が  
必要。』

『シカの  
**防護柵設置**は、  
雪圧を  
考慮すること。』



春休みに  
ミニユンボで、  
幅1m、  
長さ50mの  
平たん地を  
造成。



4月20日

近くの  
休耕田から  
ススキの大株を  
掘り取る。



平たん地に植栽する。



4月30日

ワイヤーメッシュ  
の防護柵を  
設置する。



高さ1mの防護柵を設置する

食害を受けず、順調に成長する。



6月11日 撮影



7月20日



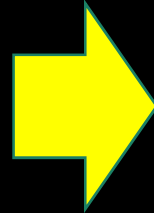
ピンクのビニルテープを張る。



## 10月 開花

平坦地に植栽  
すること、  
防護柵で囲う  
ことで、  
確実にススキは  
活着、成長した。

10月19日 撮影



このススキが繁茂し、  
草原化の拠点となってほしい。



# 『忌避樹木を植栽して、森林化を試みてはどうか。』



ネジキ



レンゲツツジ



ウリハダカエデ



ゴマギ



ミツマタ



エゴノキ



アセビ



シロダモ



ソヨゴ



シキミ

# 緑の募金公募事業 「次世代の森づくりを担う人材育成事業」

緑の募金  
緑の募金次世代育成公募事業応募申請書  
(次世代の森づくりを担う人材育成事業)

令和 5年 3月 15日

公益社団法人 国土緑化推進機構  
理事長 濱田 純一 殿

申請人の住所等  
〒 989-1402  
住 所 高取県八幡野管理町築堤11-1

法人・団体の名称 森のしずくクラブ  
代表者氏名 小峰 徹  
TEL 0828(10)0833 携帯 090-5079-8124

下記の情報をいただきたいので、「緑の募金」の支援を希望します。

記

1. 事業名 (簡単に記載。30字以内)  
緑をとりもどして土砂崩壊防止をめざして

2. 事業目的 (「～のため」「～を目的とし」「～を解決するため」等、約30字以内。  
この事業を行うことで解決したい課題等を具体的にかつ簡潔に記載。)  
シカの食害で破壊となった山腹斜面を復元緑化するために、シカの管理対策を実施して土砂崩壊を止め、ススキの繁茂を促す。

3. 対象者・ターゲット (「～を対象に」「～と一緒」等、30字以内。)  
森林業の発展を目指す若手農林生と地域住民

4. 事業内容 (「～を実施する」等、具体物かつ簡潔に記載。内容、全体概要のわかる要約を添付。取組実施の有無に関わらず、本事業が何年計画の何年目か、わかる範囲で記載。)  
〔1〕シカの食害を受けて著害となった山腹斜面の復元緑化を目指して、シカの不耐性植物(樹木10種)を植栽して土留めとし、表土の崩壊と土砂流出を防ぐ。  
〔2〕湧出から流出した土砂が谷川に流れ込むことを防ぐために、湧出にヤナギを植栽して河川岸の削食を減らす。又、シカの食害を防ぐためにクリアージュを設置する。  
〔3〕〔2〕のヤナギの植栽に向けて、市民に働きかけて現地でも森教室を開催し、植栽体験の機会を確保する。  
〔注〕 ①②③の目標について、取組計画に添付してください。



8月17日

山本様と現地(林生寮)で計画立案



10月26日・11月2日

山腹斜面に植栽









# 10種類の忌避樹木を20本ずつ 合計200本を植栽



ネジキ



レンゲツツジ



ウリハダカエデ



ゴマギ



ミツマタ



エゴノキ



アセビ



シロダモ



ソヨゴ



シキミ



今後

生育観察と3年間の植栽



市民の方が植栽に参加できる  
森林教室の開催



活動の成果を  
町内の被害地でも活用した

# 活動 3

「害獣駆除されたシカの皮の有効利用」

私たちに  
できることは  
何か？



『猟友会に依頼して  
駆除してもらえば』



私たちの目標は  
森の生き物との共存

害獣駆除され解体された  
シカの皮は、  
産業廃棄物として処理される。





シカ皮

鞣し  
作業

革製品

## 挑 戦

廃棄処分されるシカの皮を  
自分たちで鞣すことで  
革製品として有効活用できないか？

10月8日

「ちづDeer's」の赤堀広之様に  
お願いしてシカの皮を譲り受ける。



高校生が手作業で皮鞣しをおこなう。  
前例がない！革製品になるのか？



インターネットで調べて、挑戦！  
【脱脂】高圧洗浄機で肉と油をそぎ取る。



【脱脂完了】



【脱毛】  
石灰水につける



# 【脱毛】

4日後、毛をそぎ取る



# 【ミョウバン鞣し開始】

4週間浸透



焼ミョウバン : 食塩 : 水  
2 : 2 : 10

# 『自分たちで革製品を作りたい！』

赤堀様から  
智頭町に移住され、  
革細工工房を営まれる  
濱口様を  
紹介していただく。



「lore + needles」  
ロー・アンド・ニードルズ

濱口恵実 様



廃棄処分されるシカの皮を  
鞣すことで  
革製品として有効活用できないか？

『OK!』

私たちの想いを聞き、鞣した革を  
使った**製品作成の指導**を快諾して  
くださる。

10月22日

濱口様より「革」について学ぶ。



「シカの革がいかにも有用か」  
シカ革を前に説明を受ける。



工房を見学し、デザインを一緒に考える約束をする。



11月19日

ミョウバン液から出して乾燥



# 11月30日

せん刀(左)に革を押し当てて  
繊維を切断し、柔らかくする(右)。



# サンドペーパーをかけて 鞣し革の完成！



12月10日

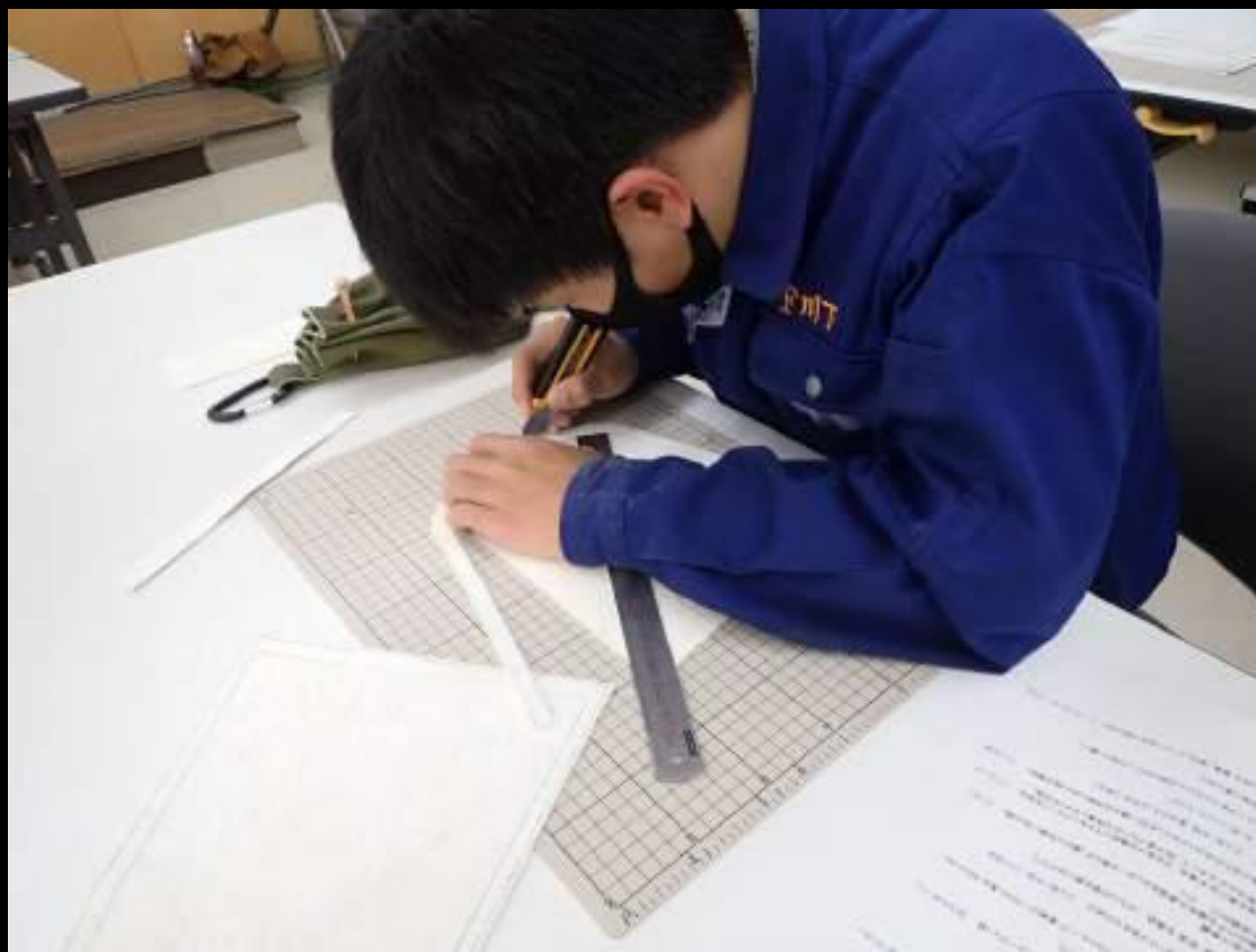
濱口様の指導を受けて  
革製品の作成。

【型取り】

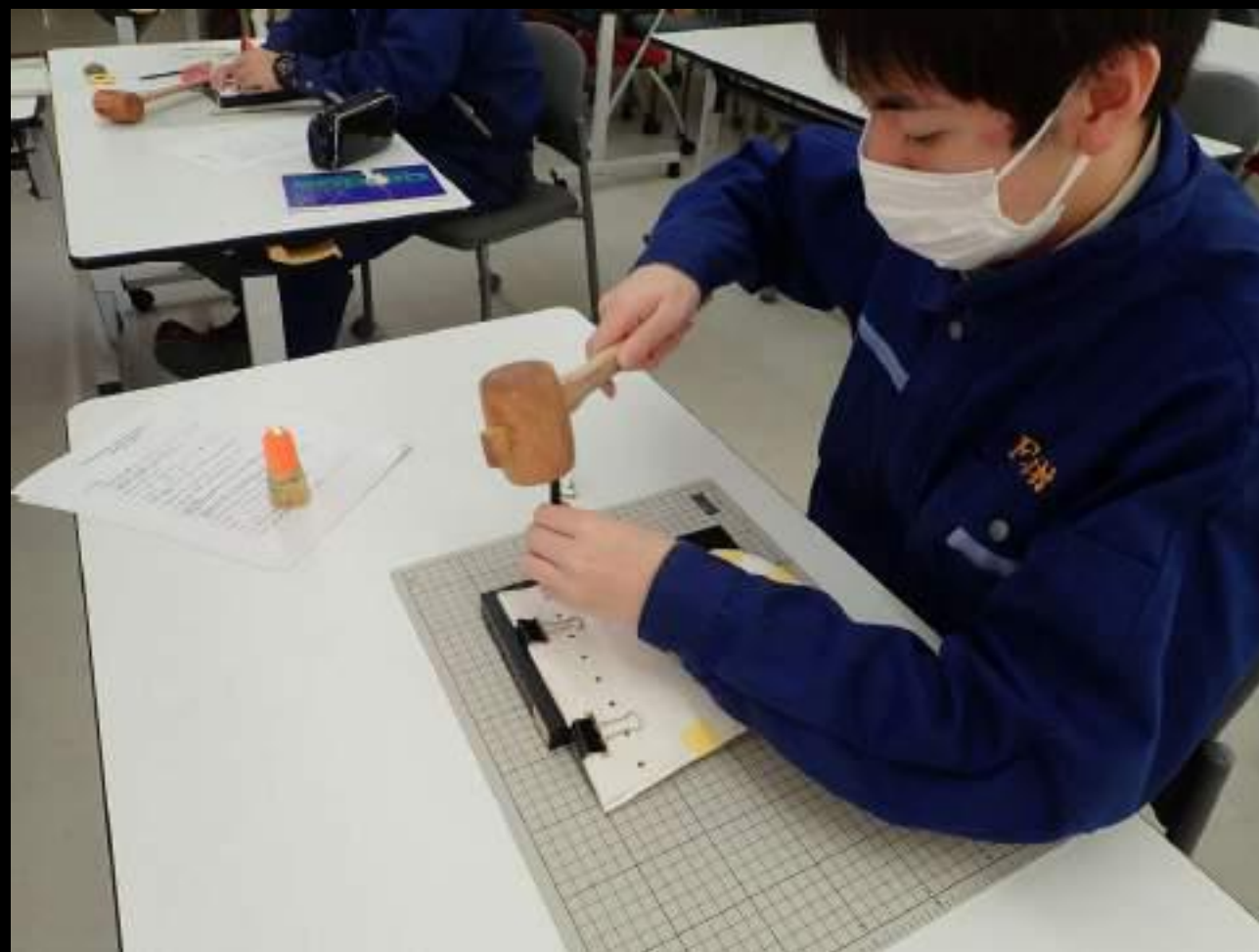




【本取り】

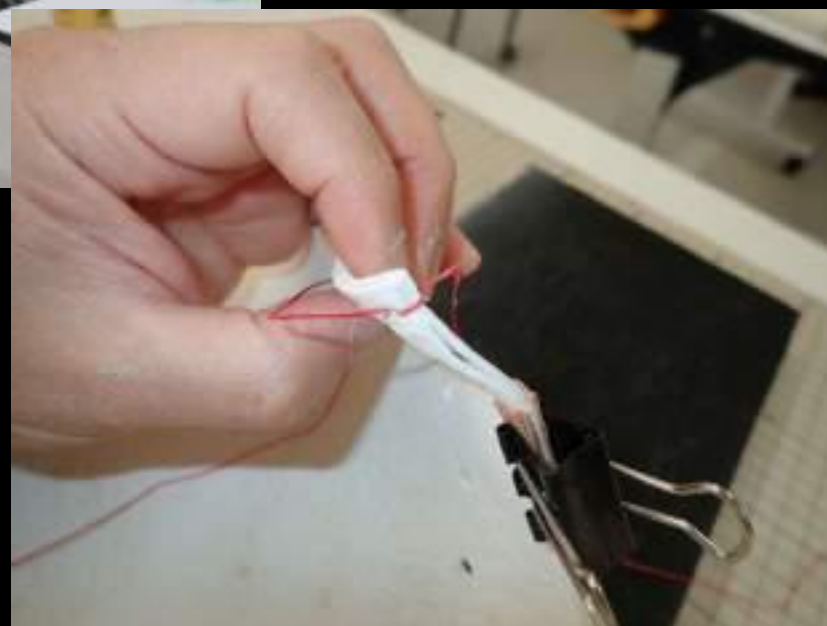


【穴あけ】





【縫い】



【完成】







濱口 様

「森の生き物との共存」という  
皆さんの目標が叶うように、  
同じ信念を持って生きる  
アメリカ合衆国の先住民族  
(ネイティブ・アメリカン)が愛用する  
「**medicine bag(薬草袋)**」は  
どうでしょうか？



4

600,000頭

(令和元年度 環境省)





(生活環境科生徒作品)

本校の生活環境科が行っている  
『**藍染め**』と連携して  
藍色のシカ革で小物を作りたい。

# 森のしずくクラブ



ご清聴ありがとうございました。

森のしずくクラブ